

よく飲み、
よく学び、
よく描く

春陽会富山研究会



研究主任 中山 里美
2019年度 会員 22名



<富山県の紹介>

富山と言えば、氷見ぶりは有名ですが、出世魚として成長とともに名前を変えるぶりになぞられた『ぶり・ノーベル出世街道』があります。その中でも特に富山とゆかりのあるノーベル賞受賞者は、物理学者の梶田隆章さん、化学者の田中耕一さん、医学生理学者の利根川進さん・本庶佑さん等です。富山を研究の拠点にされていたり、富山で生まれたり、富山で学生時代を過ごしたりと、富山はたくさんの知性と教養、品位のある人が多いところ です。

富山研究会のモットーは、「よく飲み、よく学び、よく描く」で、研修会や講評会では、学ぶ姿勢を表に出して探求心をもって参加します。そして、本展、研究会展、小品展だけでなく、様々な会派の仲間とのグループ展や個展なども精力的に行っています。

〈デッサン会〉 年に2回、裸婦デッサン会を行っています。以前はスケッチ会なども行い、絵画の基礎となる技能習得の研修としています。

〈春陽会富山研究会展〉 12月に年一回、県民会館美術館において、展覧会を行っています。50号以上の作品を2点程度発表し、本部より講師を招き、公開講評会を行います。公開講評会は3時間程度の限られた時間なので、その後懇親会を設け、引き続き作品の話聞く時間としています。昨年は、なぜか豪華三人の講師による講評会となりました。



〈春陽会富山研究会小品展〉

春陽会富山研究会展と同時開催したり、夏期に単独で開催したりと時期は変動的ですが、他の研究会との合同展という形でも開催しています。近年では、静岡、長野、神奈川、福島、関西、島根等との交流展を行っています。



夏季研修会は、泊を伴いじっくりと時間をかけて研修をします。材料研究や下地研究等の実技を伴った研修会、絵画理論や絵を描く意味等の講義形式の研修会等、多種多様な講師から、様々な方法でご指導いただいています。近年では、東先生にはご自身の体験に基づいた絵画論、峰先生には黄金背景テンペラにおける金箔貼りの技法、坂田先生にはご自身の作品をはじめ村井正誠、保田春彦らの作品を元にデッサンについて、三浦先生には、シルバーポイントの実技研と共に、絵画に脈々と流れる文化論をお話いただき、小林先生には絵画の変遷から、描くということとは何かをご講義いただきました。また、「画材体験と科学」というテーマでの実技研修、一昨年は、木版画「陰刻法による2版刷り」、昨年はテンペラ画の実技研修を行いました。

春陽会富山研究会

研究主任 中山 里美

2019年度 会員22名

よく飲み、
よく学び、
よく描く

色や形、味や匂い、様々なこだわりがある人



お待ちしております



入会を希望される方は、以下の申込書に必要事項を記入いただき、郵送またはメールで送信下さい。

----- 〈切り取り〉 -----

【宛先】 事務局 船木英明 富山市石金3-4-7 [メール eimei@yu.incl.ne.jp](mailto:eimei@yu.incl.ne.jp)

春陽会富山研究会 入会申込書

※春陽会富山研究会に入会を希望します。

氏名		
住所		
連絡先	電話	
	携帯電話	
	メール	